

F-31 農家の夫妻の生活時間構造

お茶の水女大 吉田夫美子 東京学芸大○宮崎英子 仲松梨枝子 大森^{和子}

目的 本研究は「農業経営形態別労働エネルギー代謝からみた労働時間及び作業別疲労回復法策定に関する研究」に参加し、その中で詳細な生活時間調査を行なったので、その資料をもとに次のような諸点に関して分析し、農家の夫妻の生活時間構造を明らかにしようとするものである。①農業経営形態別生活時間のパターンの比較、②農繁期と農閑期の生活時間構造の比較 ③夫と妻の生活時間構造の比較 ④高家及び勤労者世帯（専業主婦の家庭、共働き家庭の別）との比較

方法 生活時間調査は、酪農（千葉県）、稲作（千葉県）、みかん栽培（静岡県）、いちじく栽培（栃木県）の4地域で行なった。酪農農家については農繁と農閑の2回、稲作は田植と刈入れの2回、他は収穫時に行なった。各地区毎の調査対象者数は対世帯5組の夫妻で、1対5の調査用紙を用い、起床から就寝までの調査を行なった。

結果 ①については、農家の生活パターンは農業経営形態に大きく影響されている。②は、労働量が増加すると、夫は休憩時間、妻は家事時間の減少が顕著にみられる。農繁期は農繁労働、睡眠、食事、休憩とも夫妻はほぼ同一時間であるが、妻はその上に家事があるのだからの労働量となる。③については、夫妻が同一労働を同じ時間帯にするので、朝9時から夕方6時頃までは、夫妻が似たような生活のパターンとなる。④については、農家の夫妻の生活パターンは、妻が家事に従事する高家の生活パターンと類似している。農繁期、農家の主婦は、勤務をもつ共働きの主婦よりも、労働^{時間}が多い。